

平成28年度 NO. 5

コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域の連携と保幼小中一貫教育

H29.2.17

(事務局：国見町教育委員会学校教育課 ☎585-2892)

第5回国見学園コミュニティ・スクール委員会報告

1年間の活動を振り返りました

2月1日(水) 国見町役場

1 平成28年度各学校の成果と課題について

国見町では町内の保育所・幼稚園・小学校・中学校を一つの学園とみなし、保幼小中が連携した指導を行っています。「確かな学力」「心身の健康」「郷土愛」を柱とし実践項目を共有し、各学校ごとに具体的な手立てを立て、めざす子どもの姿の具現のため教育活動を行ってきました。

1 確かな学力をはぐくむ

- ☐ 家庭学習の習慣化を図る
- ☐ 保・幼・小・中の学びをつなぐ
- ☐ 国際理解の充実

2 心身の健康をはぐくむ

- ☐ 読書の習慣化を図る
- ☐ 「早寝早起き朝ごはん」
- ☐ 「あいさつ運動」
- ☐ 体力の向上、食育の充実

3 郷土愛をはぐくむ

- ☐ 「ふるさと国見」を学ぶ
- ☐ 子どもと地域の人々とのつながりを深める
- ☐ 子ども同士のつながりを深める

ボランティアの方を初め地域の皆様の支援に感謝申し上げます！

保育所長、幼稚園長、小・中校長先生の説明から主な内容をお知らせします。

(1) 藤田保育所

- ☐ 年間計画にしたがって実践することができた。
- ☐ 「国際理解」や「ふるさと国見を学ぶ」は0才から2才の子どもたちにどのように取り組めばよいか難しかった。
- ☐ 絵本の読み聞かせや家読(うちどく)に力を入れてきた。自分で本を見て楽しむ子が増えた。絵本大好きカードはカードを見やすくすることで手軽に提出できる方法を考えたい。
- ☐ 地域との関わりでは、デイサービスとの交流が有意義だった。また野菜作りボランティアの方に関わっていただき、自分で作って自分でとって食べる経験ができた。
- ☐ 英語はCDを使って取り組んだ。英語の得意な職員が生活の中で英語を使うことで、英語で聞くと英語で答える様子が見られた。
- ☐ あいさつは、保護者のみなさんにも働きかけを続けたい。
- ☐ 家庭との連携をより大事にし、「保育所だより」と「個別連絡帳」を中心に進めていきたい。
- ☐ 0才から2才の体力づくりについては、計画を立てて取り組む必要がある。
- ☐ 国見を知ってもらうことは、できるところから方言等に紹介したり、地域の人との関わりをもっていくようにしたい。

(2) くにみ幼稚園

- ☐ 幼稚園では基本的な生活習慣の一つとして家読(うちどく)、早寝早起きに取り組んできた。
- ☐ 英語活動に関しては、意欲的に活動しており、少しずつできるようになってきた。次年度は3歳児も3学期に実施するよう計画をしている。
- ☐ 読み聞かせについて様々に工夫をしてきた。家読(うちどく)にも発展させたいと考えている。
- ☐ 家読アクションカードの提出率が50～60%なので、提出率を高めたいと思う。
- ☐ あいさつは個人差があるが保護者とのコミュニケーションをとって進めたい。

- 食育は、管理栄養士の先生、食生活改善推進員の方に関わっていただいている。
- 体力の向上・運動習慣について次年度は計画的に実施できるようにしたい。
- 交通安全母の会や町内会長さんの協力で園外活動が実施できた。
- 小・中学校に比べるとボランティアの方の活用が少ない。読み聞かせ等来年度は増やしていきたい。
- 子ども同士のつながりを深めることについては、幼小、幼中、幼保の有意義な交流ができた。来年度も継続していきたい。

(3) 国見小学校

- 家庭学習の習慣化では、学年に応じた学習の仕方を身につけさせ、ノート展覧会を行ったりノートのコピーを展示したりして紹介した。
- 授業の中で集団での学び、一斉指導の中で読む・書く・話す等の活動をできるだけ多くさせてきた。自分の考えを出し合い、表現する学力をつけさせてきた。補充指導についてはスクールバスによる制約があり限られた時間をどう有効に活用するかが課題である。
- 英語活動は大変充実しており、1年生から6年生まで楽しく集中して取り組んでおり、成果が上がっている。
- 読書の習慣化に向けて力を入れてきた。ボランティアの方に読み聞かせをしていただき読書の広がりが見られるようになった。家読（うちどく）カードの提出は86%であり、大変素晴らしい。
- あいさつは単発的な取り組みとなった。そのためか学期初めは良いがだんだんと下火になる傾向がある。年間を通して取り組みたい。
- 体力向上では、マラソンに一生懸命取り組んできた。次年度は校庭が整備されるのでより活用したい。体力テストの結果は個人差が大きい。
- 多くのボランティアの方に関わっていただき、感謝したい。指導だけではなく材料等は無償提供をしていただいた方もいる。見守り、鉛筆の持ち方、畑活動や稲作活動等でふれ合いが持てた。
- 子ども同士のふれ合いでは、縦割り班を中心とした集団活動で異学年交流ができています。幼小中の交流も有意義であった。

(4) 県北中学校

- 家庭学習の習慣化については家庭学習の手引きがあまり活用されていない実態がある。次年度は柏葉ノートを活用する方向で考えている。
- 今年度ベネッセの総合学力調査を実施した。幼小中教員対象に学力分析の研修会を開催し大変有意義であった。
- 英語学習を通してコミュニケーション能力を育成している。県北中の特色ある教育活動の一つであり、英語の力は非常についてきており学力テストの結果にも現れている。
- 今年から朝読（あさどく）に取り組んでいる。たった5分間ではあるが、落ち着いて一日がスタートできている。家読（うちどく）があまりなされていない実態がある。
- 朝のあいさつ運動にとっても熱心に取り組んでいる。朝のあいさつだけでなく、日中もほとんどの生徒が「こんにちば」とあいさつをするようになった。
- 体力面では全国と比べて持久走が劣っている。授業の初めに走らせている。部活動は勝つことばかりが目的ではなく人間性を大事にした指導をしている。休業中には部ごとに勉強会を開いている。
- 食育については、家庭の果たす役割が大きいので、次年度は親子講演会で食育を取りあげたい。
- 郷土愛を育むでは1年生が平泉学習旅行を行った。大変実のある研修旅行となった。
- 職場訪問職場体験は地域に大変お世話になっている。キャリア教育の大事な位置づけとなっている。
- 文化祭には多くの地域の方に来ていただいている。合唱コンクールがメインであり子どもたちがとてもがんばっている。
- 次年度に向けて部活の再編に取り組んで来た。次年度から剣道部、柔道部は特設とする。休部にはせず、中体連につながるものとする。スポーツ少年団に大変お世話になるが連絡体制を取り連携を図っていきたい。
- 英検対策、書き初め等地域ボランティアの方には大変お世話になっている。

2 学校支援本部事業の成果と課題について

平成28年度活動最終報告（説明 中野コーディネーター）

- ボランティア登録者数は、昨日3名追加があり、今現在174名です。
- 各学校内で情報交換しながら新たに活動等活用している。今年度保育所で野菜の植え方、幼稚園でPTA研修会、小学校ではあんぼ柿体験で支援をいただいた。あんぼ柿体験では皮むき器を持ち込んでいただき、柿を2個いただいた。4年生の先生方は失敗することも学びと考えている。授業のねらいを達成するため先生方も工夫している。
- 中学校では、書き初め支援を今年度は2時間枠で行った。大変丁寧に支援ができた。小学校の硬筆と中学校の書き初め指導は同じボランティアの方であり、小学校では鉛筆を持つ形が固まってしまっている実態があるので、入学前に幼稚園で指導を行ってはどうという提案があった。今年度2月に実施の予定である。
- 5年生がわらをつかってしめ縄づくりを行った。小坂地区と貝田地区で作り方が違うので指導するスタイルを同じにするために勉強会を開いていただいた。
- 民話の会からは子どもたちの姿を細やかに報告していただいた。
- インフルエンザや悪天候で活動を延期する際にボランティアの方に素早く連絡できなかったことがあった。
- 費用を要する活動ではボランティアのみなさんの善意で協力をいただいている。みなさん、国見町の子どもたちのためにと善意で協力をいただいているが、今後どのようにしていったらよいか。
- より多くのボランティアの皆さんに支援に参加していただきたいが、限られた時数、行事等の中での支援なので難しさがある。体験活動、安全、学習の補助の要請が多い。
- 年間計画で計画していても支援の必要が無くなる場合もある。先生方も努力しているが予定通り授業がすすまないこともある。ボランティアの皆さんには依頼があつてのボランティア活動なので中止や延期もありえるということを伝えてある。
- 社会福祉協議会、寿クラブが関わるボランティア活動では、県から定められた実施回数があるとのことである。次年度は、子どもたちの健康状態等により実施が難しいことがあるが、各団体との連携を十分にとっていきたい。
- 各学校、時間割や特別教室の使用等柔軟に対応していただいている。空き教室があればボランティアの方の待機場所に活用できるので今後よろしく願いたい。
- ボランティア同士の交流のためのスペースづくりが課題である。話し合いや情報交換の場所の確保ができていない。今後児童生徒の減少にともない空き教室が出てくると対応できると思う。
- 資料に支援活動ごとの記録が示してある。2月23日にくにみ幼稚園でえんぴつの持ち方指導を実施する予定である。
- みなさまにご協力に感謝申し上げます。

3 熟議（グループ協議）

テーマ「国見学園コミュニティ・スクールをどう活性化するか」

今年度の事業をふりかえり成果と課題、そして課題解決の手立てについて話し合った。

〈1班〉

成果

- 地域にコミュニティ・スクールが少しずつ浸透してきている。
- 幼小中一貫の取り組みがなされ、各学校の連携がとれている。子どもたちに対する継続的なフォローができています。
- 各学校の取り組みの成果と課題が明らかになっている。

課題

- 地域には根ざしてきているが、コミュニティ・スクールの認知度という点ではまだ不十分である。
- ボランティアの方に負担していただいている材料費等にどう対応するか難しい。

課題解決

- ☆ 事業を継続していくことを大事にしたい。
- ☆ コミュニティ・スクールの制度や事業について保護者や地域にもっとPRすることが必要である。広く知っていただくためにコミュニティ・スクールだよりの全戸配付やホームページによる広報を行ってはどうか。

- ☆ 保護者や地域の方がコミュニティ・スクール委員会の話し合いに参加しやすいように会議時間を夜間に設定してはどうか。

〈2班〉

成果

- 保幼小中一貫事業により、子どもの教育を通してみることで良かった。
- 国見学園アクティブプランにより、小学校中学校だけでなく保育所、幼稚園の取り組みが具体的に分かった。新しく国見町に赴任した先生も分かりやすいと思う。
- コミュニティ・スクール制度により、学校・先生の意識が変わり、地域の方が関わり、地域の理解が得られ、そして子どもの意識も向上してきたと思う。

課題

- 先生、子ども、保護者の負担が多くなっているのではないか。
- 先生方の理解を深めたい。
- コミュニティ・スクール制度を理解していない保護者が多い。

課題解決

- ☆ 先生方の理解を深めるためにコミュニティ・スクール事業を継続していくことが大事である。
- ☆ コミュニティ・スクール制度を理解していない保護者が多いので、保育所の保護者から意識付けを行ってはどうか。
- ☆ コミュニティルームをつくり、子どもと自由に交流したり、学習を教えてもらったりできる場を設けたい。

〈3班〉

成果

- 家読（うちどく）が小学校を中心にかなり効果があがり浸透してきている。
- ボランティア活動により地域で子どもを育てる意識が高まってきている。
- 学校に地域の方が入りやすくなり、学校との関わりが深まった。
- ボランティアが入ることで授業内容も深まることができた。特に体験活動。
- 熟議で話し合ったことが部活動再編につながった。

課題

- 読書の時間をどう確保し、家読（うちどく）を家庭につなげていくか。
- ボランティア支援によって実際に先生方の負担は減っているのか。
- コミスクの取り組みが保護者・地域から見てわかりにくい。
- ボランティア活動が増えているが、担当を分けたり保護者でもう少し協力できればよい。
- 分野で支援組織を分けたり、ボランティアに入る活動の見直しや、どの基準で支援に入るか見直しが必要ではないか。
- 熟議で出た提案がどう実践として具体化されるか。

課題解決

- ☆ 学校支援ボランティアについては、これから支援内容により部会を組織して運営をすればよいのではないか。
- ☆ 部活動再編の問題はこれから更に検討を要することが出てくることが予想されるので、長く関わっていただいている地域の方々と連携をしながら進める。

4 教育長あいさつ

本日はありがとうございました。コミュニティ・スクールの良さは地域と一体となって子どもを育てること、更には地域づくりにつながるものと思っています。本日の話し合いでも各部会で白熱した話し合いがなされ、時間が足りないくらいでした。話し合われたことをこれから生かして進めていければと思います。

県の学力検査の結果をお示ししました。全国学力テストが小学6年と中学3年、県学力テストは小学5年と中学2年が行います。小中学校とも県平均よりも大分良い成績をとっています。先生方も子どもたちもがんばっていますし、みなさまの支えや応援があったことです。御礼を兼ねてあいさつとします。ありがとうございました。

第6回コミュニティ・スクール委員会 平成29年2月28日（火）午後3時 町役場
次年度の各学校の経営方針等について話し合います。